

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2017

学習院大学

(試験時間 90 分)

A 入試概況

2015 年度入試まで志願者減が続いていたが、2016 年度に新設された国際社会学部の人気に押され、ここ数年で志願者を大幅に増やしており、人気の回復が見られる(2015 年から 2017 年に向けて、大学全体で志願者が 6000 人増)。あわせて、定員充足率の厳格化(通称 1.1 倍問題)の影響もあり、合格者が減らされ、倍率が年々増えている傾向にある。6.6 倍という高倍率の国際社会を除いて考えても、2015 年度から 2017 年度の 2 年間で受験者が約 4000 人増えたにもかかわらず、合格者は約 1500 人減り、大学全体の合格倍率も 2.2 倍から 4.2 倍となんと 2 ポイントも上昇している。

2018 年度入試はいったん人気落ち着く可能性もあるが、定員充足率の厳格化によって安全志向になった上位受験生が併願校として抑えに来ることも想定され、さらなる合格者の絞り込みと合わせて、難化することは避けられないのではないだろうか。

過去 3 年間の受験者数、合格者数、倍率

		2017 年度入試			2016 年度入試			2015 年度入試		
		受験者	合格	倍率	志願者	合格	倍率	志願者	合格	倍率
法	法	2,163	374	5.8	1,904	416	4.6	1,804	584	3.1
	政治	1,416	315	4.5	1,806	384	4.7	973	439	2.2
経済	経済	2,694	690	3.9	2,936	715	4.1	1,727	651	2.7
	経営	2,274	578	3.9	2,610	612	4.3	1,401	465	3.0
文	哲	502	152	3.3	358	171	2.1	334	148	2.3
	史	781	191	4.1	709	223	3.2	627	236	2.7
	日本語 日本文	764	191	4.0	718	227	3.2	668	244	2.7
	英語英 米文化	825	240	3.4	802	226	3.5	560	256	2.2
	独語圏 文化	240	77	3.1	198	84	2.4	228	91	2.5
	仏語圏 文化	516	104	5.0	242	107	2.3	320	117	2.7
	心理	921	181	5.1	721	183	3.9	547	198	2.8
	教育	601	102	5.9	601	144	4.2	627	138	4.5
理	物理	410	115	3.6	380	136	2.8	442	442	3.4
	化	506	117	4.3	464	129	3.6	439	439	4.2
	数	462	119	3.9	479	148	3.2	391	391	2.6
	生命科	366	100	3.7	318	91	3.5	367	367	3.1
国際社会		2,311	349	6.6	2,077	502	4.1			

MAX 入試問題アプローチ 2017 学習院大学

以下は合格者の平均得点割合であるが、合格最低ラインはこれよりも低いと考えられ、合格の目安は65～70%と言えるだろう。テストの難易度が変化するため、経年比較は大きな意味を持たないが、学部内の難易度比較をすると法、史、英語英米文化、心理、教育あたりがやや高めのポイントを出している。これらはもともとの偏差値差を反映していると言える。

過去3年間の合格者の平均得点 (%)

		2017年度	2016年度	2015年度
法	法	75.0	71.7	75.9
	政治	73.5	70.6	75.2
経済	経済	71.7	71.3	63.5
	経営	71.7	71.7	64.4
文	哲	70.7	69.4	66.0
	史	74.4	73.9	70.5
	日本語 日本文	74.2	71.6	68.5
	英語英 米文化	72.5	72.0	68.2
	独語圏 文化	70.1	69.8	66.1
	仏語圏 文化	70.1	67.1	65.4
	心理	74.1	71.0	68.1
	教育	74.1	72.4	68.3
理	物理	67.9	67.9	71.8
	化	63.8	67.5	74.8
	数	64.2	66.1	71.4
	生命科	66.5	67.1	72.6
国際社会 (A)		64.5	71.6%	
(B)		81.3		

B 英語試験の概況

難易度は MARCH の中では易しめ～標準的と言えるだろう。時間は 90 分であるが、大問数は 7 つでボリュームもあるものの、大問 4 以降は大きく時間を費やすものではなく、時間が足りないということはないだろう。練習では速読に努めながらも、過去問演習では無理に急がず、特に長文読解で取りこぼしがないように落ち着いて問題に取り組んでほしい。

テストの構成は全学部で統一されており、大問 7 つの構成は長い間変わっていない。長文は 600～700 語程度で、レベルはセンターよりはやや難しいものが出るが難解なものはないと言ってよい。長文読解には 20～40 字程度の筆記が計 4 題ほど含まれる（各大問 2 つずつ）。150 点の配点中半分以上の 80 点が 2 つの長文に集約されており、大問 3 の空所補充のミニ長文読解も入れると 3 題合計 95 点となり、全体のほぼ 3 分の 2 を占める。やはりこの読解にしっかり取り組み、取りこぼしをなくすことが合格の必須条件である。大問 4 以降の文法的な知識はセンター試験と同等程度のもので問われ、センター対策をしっかりとやっていることが基礎となる。大問 7 の和文英訳も基本的な構文が求められている。

単語はターゲットレベルをしっかりとやっていけば間違いなく対応できる。1900 までの完成を目指そう。熟語も難しいものは多く出題されず、ターゲットなどの熟語帳で完成させ、それ以外は過去問でおさえたいこう。

【時間の目安と難易度】

	内容・語数	時間	難度
1	読解問題： 600～700 語程度	25～30	B
2	読解問題： 600～700 語程度	25～30	B
3	読解問題： 250 語程度	8	B
4	文法問題： 4 択空所補充	4	A
5	文法問題： 下線部間違い探し	4	B
6	会話形式の 4 択空所補充	4	A
7	和文英訳 2 題	4	A/B

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

大問 1&2

【2017年 経済】

次の英文を読み、下の問いに答えなさい。

It is impossible to discuss money without first thinking about what money actually is. In order to understand one of the main points about the nature of money, we need to travel to the Pacific Ocean. In Micronesia, about halfway between Australia and Japan, there's a group of islands called Yap. It has a population of 11,000 and is largely unvisited except by divers; but (1)it has been popular with students of economics since 1991, when the American economist Milton Friedman published a paper called 'The Island of Stone Money'.

Yap has no metal. There's nothing to make into coins. What the Yapese do instead is sail 450 kilometres to the islands of Palau, where there's a particular kind of limestone* not available in (2)their home islands. They quarry* the limestone, and then shape it into circular wheel-like forms with a hole in the middle, called fei. Some of these (3)fei stones are absolutely huge, fully four metres across. Then they sail the fei back to Yap, where they're used as money. 以下省略

A. 下線部(1)の意味に最も近いものを次の(イ)~(ニ)の中から1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 〕

- (イ) many Yap islanders have studied economics since 1991
- (ロ) Yap has been a popular student travel destination since 1991
- (ハ) Yap has been well known to economists since 1991
- (ニ) Yap's economy has benefited from diving since 1991

B. 下線部(2)が指すものとして最も適切なものを次の(イ)~(ニ)の中から1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 〕

- (イ) Japan
- (ロ) Micronesia
- (ハ) Palau
- (ニ) Yap

D. 下線部(4)とほぼ同じ意味の1語を同じ段落からそのまま抜き出し、解答欄に書きなさい。〔解答用紙 〕

F. 下線部(6)を、解答欄に与えられた語句に続けて、句読点を含め30字以内の日本語に訳しなさい。〔解答用紙 〕

L. 下線部(11)の内容を解答欄にそれぞれ 10 字以内の日本語を補い、分かりやすく説明しなさい。

〔解答用紙 〕

Yap 島のシステムと同じように.....が移動するのではなくて,が移動するということ。

M. 本文の内容と一致するものを次の(イ)~(ト)の中から 2 つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。ただし、3 つ以上マークした場合は得点を認めません。〔解答用紙 〕

- (イ) Diving has become a popular and economical pastime in the Pacific islands.
- (ロ) The Palau islanders and Yap islanders exchange metal for limestone.
- (ハ) The people of Yap spend a lot of time moving the fei stones from house to house.
- (ニ) Even the fei stones lost at sea are used as money by the Yap islanders.
- (ホ) The people of Yap keep changing their minds about the true value of the fei stones.
- (ヘ) In 2006 the amount of money in the world was larger than the amount that exists today.
- (ト) Money consists of electronic and printed records more than it does actual banknotes.

【形式】

600 語~700 語程度の長文に対して、筆記、マーク混合の問題が 10~13 個の設問として出される。設問は主に以下の 4 種類に分類される。

- ① マーク式、4 択で答えるもの (例題 A、B)
- ② 筆記、1 語~数語程度で答えるもの、指示語の当てはまる部分を書き出すものも含む (例題 D)
- ③ 筆記、日本語 1 文ほどで答えるもの、和訳問題、「30 字以内」といったように字数制限があるものも多い (例題 F、L)
- ④ 正誤問題： 7 つのうち正しいものを 2 つ選ぶ (例題 M)

【分析】

長文のレベルはセンターをやや難しくしたレベルのものが出題される。長さは 600~700 語が相場で、600 語を下回るものもあることがある。文章の内容や設問によっては、細かい部分を把握しながら大意をとるものもあり、紛らわしいものもいくつかはあるが、全体的にはストレートに答えが出せるものが多い (2016 年の経済学部大問 1 は 2 者を過去と現在で比較する問題であったが、どちらの話をしているのかを頭に入れながら読まなくてはならず、そのような特徴があったと言える)。

選択問題は答えもストレートで大体は悩まずに解答できるものが多い。一部難易度の高い問題が紛れているが、それらは割り切って答えていこう。それ以外のところで落とさないことが重要だ。筆記は敬

遠しがちだが、②、③のタイプ共に取りやすい問題である。②は代名詞や代動詞を本文中から答えさせる問題もあるが、普通の英文の理解で簡単に探せるものでありここで落とすわけにはいかない。中には5桁以上の数字の読み方を英語で答えさせるような変則的な問題が出されることもある。③も答えは簡単で、和訳問題はそのまま基本構文をもとに意味をとれるものが大半で（和訳なので細かい部分も気にしないとイケないが）、それ以外の筆記も前後の文から答えを見つけ、書いてあげればよいものが多い。各大問の配点は40点で、個別の配点は選択問題が3点に対して、筆記②は4点、筆記③は6点ぐらいだと計算できる。そう考えると筆記だけでおおよそ16~20点、つまり4~5割の得点になるので、この筆記で確実に取り、選択問題で平易なものを取りこぼさないというのが鉄則だ。

【アプローチ】

時間はできれば25分で収めたく、練習ではそれを目標時間として設定する。ただし、全体90分を有効利用することを考えれば、難しいものは30分までかけてもよいだろう（できれば2題合計で55分ぐらいに収めると時間にずいぶん余裕ができる）。

設問はほとんど下線部が引かれているので、読む前に事前に設問に目を通す必要は特段ない。まずは全体を把握するために、**First Reading** を7~9分程度でこなし、残り時間17、8分をうまく使って解いていくことになる。最後に正誤問題があるので、下線部以外のところもしっかり読み、全体が把握できるようにしよう。一方、細かい点については読み取りづらい部分もあるので、**Second Reading** で対応するつもりでナーバスになりすぎないようにする。

平易な問題も多く、記述問題を含めて15分もあれば解答できるはずである（というより15分で溶けるようにしていかななくてはならない）。まずは記述問題であるが、多少ひねられているものもあるが、大意が把握できていれば解答を出すのは苦労しない。字数制限がある場合はポイントを自分の言葉でまとめることも必要になる。つぎに選択問題で「この例に当てはまらないものを選びなさい」という設問がいくつか見られるが、何となくの理解だけでなく、その下線部の前後に実際にその例が書かれていないか確認して答えること。代名詞や代動詞を具体的にこたえていく問題は、”Those who V と Those who don't.”といったような形で比較の中で探すものもあるので、注意して答えを探していく。そして、最後の正誤問題（出題形式④）については、**First Reading** の理解でまずは○、×、△に仕分けをしてから、**Second Reading** でピンポイントにチェックをし、正解を絞っていこう。選択問題で2個間違いまでに抑えられることが目標。40点中30点を目指したい。

【MAX感想】

読解自体は、難しいと思うものは多くないが、2016年経済学部大問1のように英語ではない部分で読みづらいというものはある（5歳未満の子を持つ母親と5歳以上の子を持つ母親の現在と過去のライフスタイルの違いをデータをもとに把握していくような文章）。どの問いでも選択肢はおおよそ絞れたが、前後関係を把握して答える問題、接続語や副詞で空所を埋める問題などはやや難しいものもあったように感じた。最後の正誤判断は**First Reading** で7割がたは判断がつくものであった。**First Reading** の中で最低1つはしっかりと正解を取りたいところだ。所要時間16~17分。私も計4題解いたが、全ての問題で大きな差はなく**First Reading** で6分、解答に10分といった感じになった。それを踏まえると受験生はそれぞれ1.5倍の**First Reading**9分、解答15分ぐらいが目安なのかもしれないが、できれば**First Reading** は短めにとる訓練をつけたほうが良いので、7~8分ぐらいを目安に頑張してほしい。

大問 3

【2017年 経済】

次の(1)～(5)の空所を補うのに最も適切なものを(イ)～(ニ)の中からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕

Until recently, no major Japanese company had ever changed its official language. But adopting the English language, I believe, is vital to the long-term competitiveness of Japanese business. Japan has experienced an enormous economic shift in recent decades, a shift (1) by the forces of globalisation. The only way to compete in this inter-connected age is to speak the language of the market, and that language is English. Yet Japan continues to work inside a linguistic bubble – not least because many firms in Japan are focused on the domestic market and (2) little attention to global trends. But this approach is becoming increasingly difficult to justify. Switching to English makes Japanese firms more competitive, while opening employees' eyes to the outside world.

(1)

(イ) drive (ロ) driven (ハ) driving (ニ) drove

(2)

(イ) have (ロ) hold (ハ) pay (ニ) seek

(3)

(イ) bad (ロ) good (ハ) poorly (ニ) well

(4)

(イ) few (ロ) none (ハ) others (ニ) somebody

(5)

(イ) along (ロ) at (ハ) outside (ニ) to

【形式】

250 字程度の読解に対し、4 択式空所補充が 5 問出される。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

多少難しさを感じるところでもあるだろう。意味を判断して答えるもの、文法的な知識が問われるもの、表現を問われるものそれぞれであるが、文法的なものは簡単な設問が見受けられる。

空所以外のところは飛ばして読みたくなるが（できる人はそれもありだが）、多少難易度があり、正答率を落とすところなので、10 分、場合によってはプラスで 2～3 分ぐらい使っても、しっかり解いていきたい。前後関係が問われる問題や類似した単語を選ぶ問題はやや難しいものもあり、私が答えを少し悩んだのもその箇所である。それでも絶対違くと即判断できるものも選択肢に 2 つはあり、たとえ間違ったとしても 2 個までは正確に絞れるようにしていきたい。一方で文法的なものや表現で答えられるものは確実に取りたいところだ。目標は 4 問正解。

MAX 所要時間 5 分。

大問 4

【2017年 経済】

次の(1)～(5)の各文において、空所を補うのに最も適切なものを(イ)～(ニ)の中からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 〕

- (1) I wonder what the weather () like next weekend.
(イ) has been (ロ) is being (ハ) is to be (ニ) will be
- (2) I felt really homesick when we moved to Canada, but I soon got () it and made some new friends.
(イ) along (ロ) by (ハ) on (ニ) over
- (3) I want to go travelling this spring, but I don't have () money.
(イ) enough (ロ) many (ハ) plenty (ニ) several

大問 5

【2017年 経済】

次の(1)～(5)の各文において、間違っている箇所を(イ)～(ニ)の中からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 〕

- (1) Japan (イ)has become the world's first fully (ロ)modernized non-Western country (ハ)during the second half of (ニ)the twentieth century.
- (2) Although Venus is Earth's closest neighbour, (イ)but little (ロ)is known about the planet because it is (ハ)permanently covered (ニ)by thick clouds.
- (3) (イ)Rapid growth during 2009-10 made China the world's (ロ)second larger economy, (ハ)ranking behind the United States but (ニ)ahead of Japan

大問 6

【2017年 経済】

次の(1)～(5)の対話において、空所を補うのに最も適切なものを(イ)～(ニ)の中からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕

(1)

A: What's the matter? You look as white as a ().

B: I've just heard some bad news and I'm pretty upset.

(イ) leaf (ロ) paper (ハ) sheet (ニ) snow

(2)

A: You were in Tokyo last week! Why didn't you call me?

B: I () if I'd known you were there.

(イ) had called (ロ) may call (ハ) would call

(ニ) would have called

【形式】

大問 4 は 4 択式の空所補充、大問 5 は下線部間違いさがし、大問 6 は対話形式における 4 択式の空所補充となっている。それぞれ 5 題ずつ。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

大問 4 と 6 は単文か対話かの違いのみでほぼ同じ問題と言ってよい。大問 6 は類似した単語の問題に特化している傾向も見られたが、上記の 2017 年経済学部のように必ずしもいつも当てはまるものではない。明らかに答えがすぐ分かるものも多く、センター試験で出てくるレベルのものは絶対に取りこぼしてはならない。

大問 5 は下線部間違いさがしで、考えなくても答えが分かるものもある。感覚による判断に加えて、熟語の基本、文法の基本を正確に判断することが求められる部分もある。下線部の前後にある熟語っぽい表現には気を付けたい。

時間は大問 4、6 は 2～3 分、大問 5 は判断に迷ったとしても 4 分程度というところか。とりあえず各 4 分以内という目安で調整してみよう。目標は各大問 4 問正解を基準にする。この 3 題で 45 点を占めており、長文に比べて取りやすい部分なので、3 題合計で 4 問間違いまでに抑えたい。

MAX 所要時間、各大問 1 分半。

大問 7

【2017年 経済】

次の日本語を英語に訳しなさい。ただし、解答欄に与えられた語・句で文を始め、終えること。
〔解答用紙記述〕

(1) どこで両替することができるか教えていただけますか。

Could (.....) money?

(2) 電車は東京駅を午前 10 時に出発するはずだった。

The train was (.....) 10 a.m.

【形式】

条件付き和文英訳。日本語と英語の一部が与えられ、英文を完成させる。2 問。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

求められている英文は難しくなく、日本語に合わせて基本構文、表現をしっかりと使えるようにする。英語によく触れ、慣れている人なら、「～するはずだった = be supposed to do」「思ったようだった = seem to have Ved」など、求められている表現もすぐに出てくるだろうが、そうではない人は構文や文法問題などの例文を確認して、表現をアウトプットできるようにする。単文レベルの和文英訳の問題集を使うこともよい。助動詞、完了形、受身、仮定法、比較といったターゲットにされる構文はしっかりおさえたい。3 単現、時制、冠詞、単複一致、be 動詞など、凡ミスがないように気を付けること。